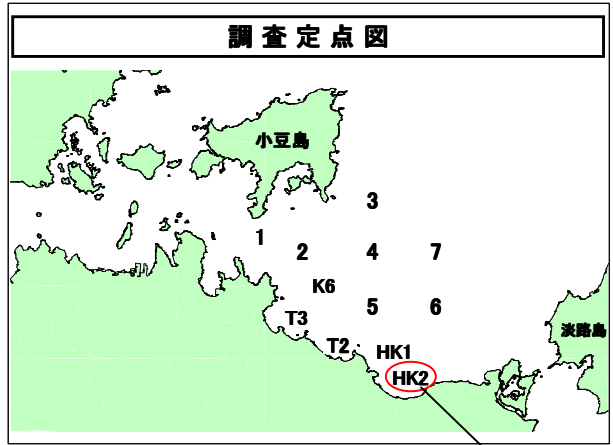


カタクチイワシ卵稚仔出現状況 (2013. 7-1号)

香川県水産試験場 益井
TEL: 087-843-6511

調査日: 2013年7月1日
調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳
調査定点: 播磨灘11定点+臨時調査1定点(右図)



臨時調査点

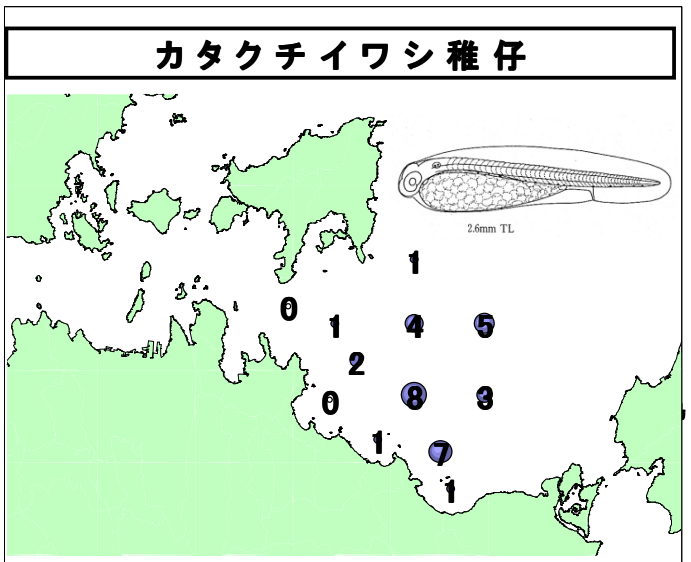
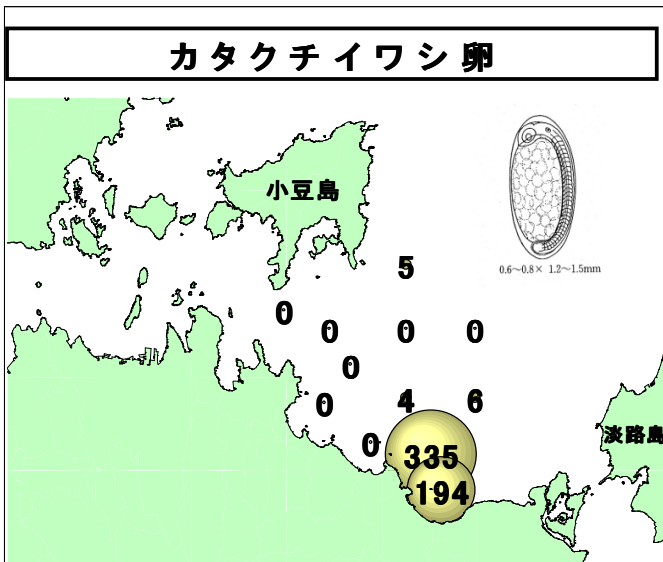
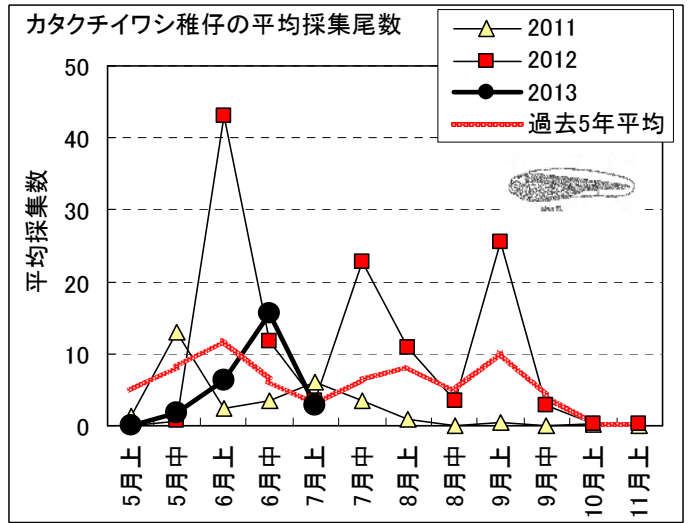
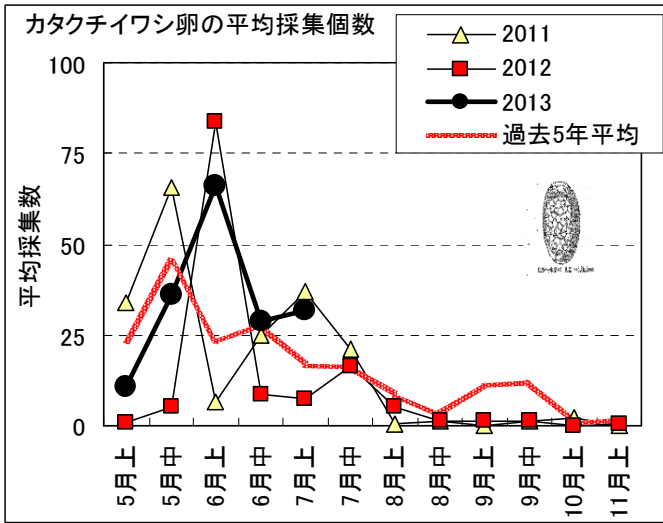
【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.7.5	0	2	42	1	39	174	14	99	-	31	2	4	37.1
2012.7.3	0	20	6	16	15	0	2	18	-	0	0	1	7.1
2013.7.1	0	0	5	0	4	6	0	335	194	0	0	0	31.8

【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.7.5	0	9	2	8	13	6	13	8	-	4	0	3	6.0
2012.7.3	0	4	15	8	2	6	2	0	-	0	0	1	3.5
2013.7.1	0	1	1	4	8	3	5	7	1	1	0	2	2.9

- * 表中の「-」は未測定を表す。
- * 11点平均値: 臨時調査点を除く播磨灘11定点の平均値を表す。
- * グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を表す。



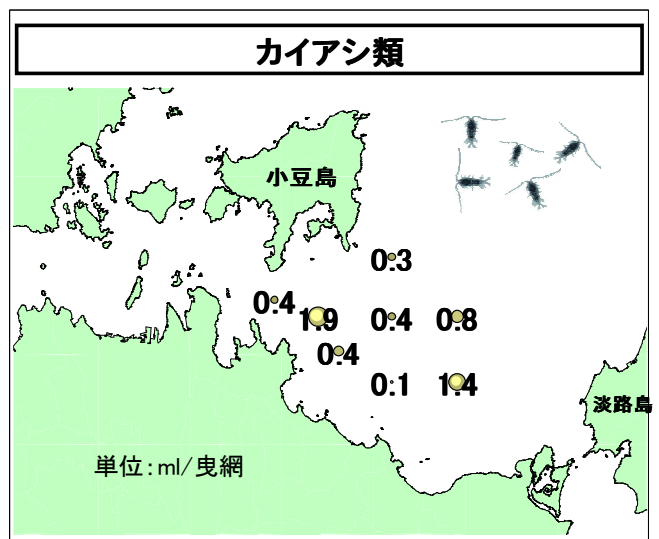
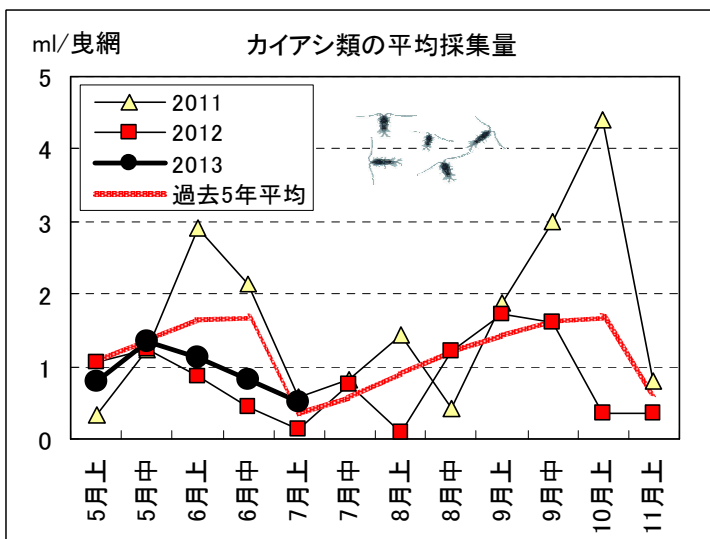
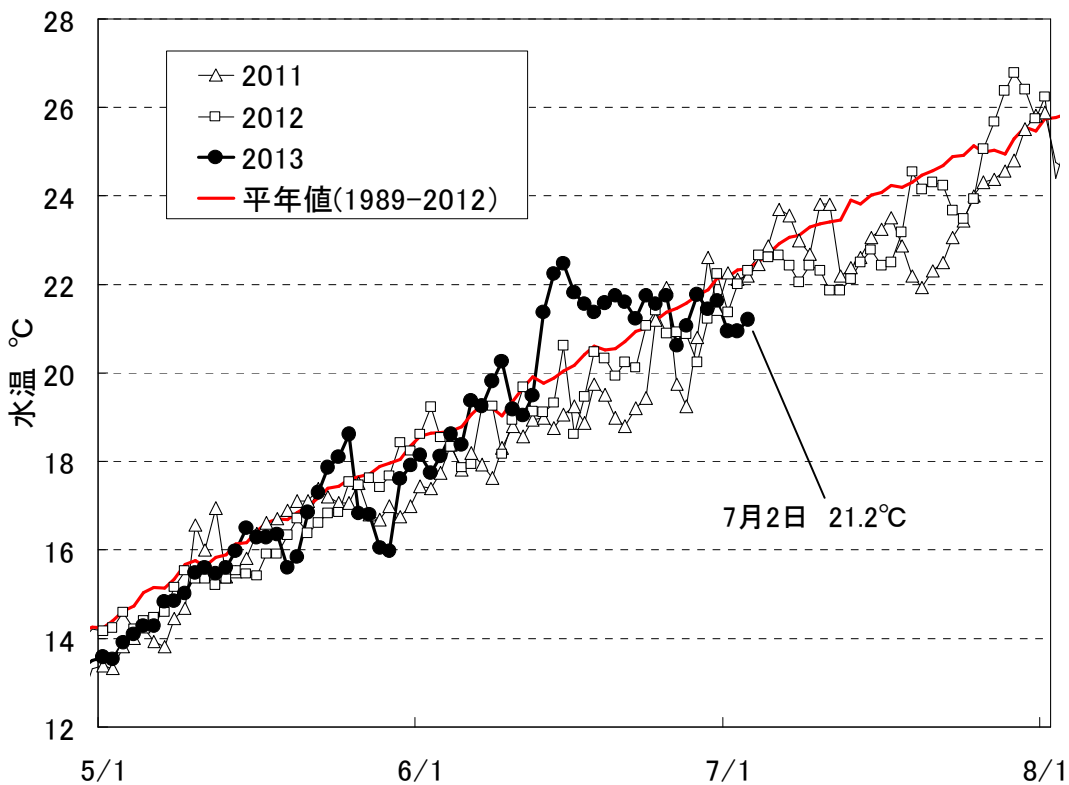
播磨灘11定点における卵の平均出現数は約32個で、前年及び平年(直近5年平均)を上回りました。一方、稚仔の平均出現数は約3尾で、前年及び平年と同水準でした。卵は引田沖の調査点で局所的に出現しました。

引田沖の水温は、6月下旬頃から横ばい傾向で、平年並み～やや低めで推移しています。

プランクトンは、懸濁物(プランクトンの分解物)が目立ちました。カタクチワシの餌料生物として重要なカイアシ類はあまり多くありませんが、この時期としては概ね平年並みの量だと思われます。

【参考】

引田沖水温バイデータ(午前9時, 1.5m層)



カイアシ類採集量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照ください。

※カタクチワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>

※次回の調査は、7月17日に実施予定です。